

令和7年6月26日

西部農林水産振興センター益田事務所農業部

標 題	有機水稻雑草対策の省力化を目指して新型機械を実演
------------	---------------------------------

(ダイジェスト)

有機水稻栽培では雑草対策に多くの労働時間がかかっており、省力化技術が求められています。当農業部では吉賀町に有機水稻の展示ほを設置し、抑草ロボットを活用した際の労働時間や効果を確認しています。今回は展示ほを活用して、管内の担い手や有機栽培に取り組む農業者を対象に現地研修会を開催しました。

島根県では有機農業の生産拡大に向けて産地づくりの拡大に取り組んでいます。有機米では省力化技術の導入などにより、すでに取り組んでいる農業者の規模拡大や新規栽培者の確保を進めていますが、除草に多くの時間を要し、面積拡大が進まない要因の一つとなっています。

当農業部では有機水稻栽培での雑草対策の省力化を進めるため、抑草ロボットを導入している担い手のほ場に展示ほを設置し、6月17日に現地研修会を開催しました。当日は農業者12名、関係機関16名の計28名が参加しました。

研修会にはメーカー担当者も参加し、新型の抑草ロボットについて説明がありました。投入のタイミング、水の深さ、稼働時間についての注意点とスマートフォンの専用アプリを活用することで開始や稼働時間、帰還地点の設定、呼び寄せ機能の操作が容易との説明もありました。また、抑草ロボットと機械除草の組み合わせを推奨しており、今まで除草機で複数回行っていた除草作業が1回のみとなり労働時間の大幅な削減につながるとのことでした。

参加者からは多くの質問があり、写真や動画を撮影しながら田んぼの濁り具合や小さな草が抜けている様子を確認していました。研修後のアンケートでは導入したいという声が多く、早速申し込みをされる農業者もいました。

今回の研修会には有機栽培実践者以外にも、慣行栽培を行っている農業者も参加し、関心の高さが伺えました。

当農業部では引き続き展示ほの水稻の生育や抑草効果、労働時間等を確認していきます。さらに有機米の生産拡大に向け、関心のある生産者に情報発信していきます。



抑草ロボットが稼働している様子



抑草ロボットの抑草効果を確認する参加者